

令和 5 年 6 月 22 日現在

機関番号：22302
 研究種目：基盤研究(C)（一般）
 研究期間：2019～2022
 課題番号：19K00500
 研究課題名（和文）「顔」の表象からみる詩的言語と近代化の関係—仏サンボリズムと日本近代詩比較研究

 研究課題名（英文）Relation between poetic language and modernization examined through representations of faces and portraits - French Symbolism and Modern Japanese poetry

 研究代表者
 井村 まなみ（IMURA, Manami）

 群馬県立女子大学・文学部・教授

 研究者番号：60315695

 交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、近代化の大きな指標である「顔写真」の普及がフランス象徴主義と日本近代詩に与えた影響を明らかにするため、詩に表される「顔」「肖像」の表象を探ることから始められ、萩原朔太郎とアルチュール・ランボーの作品をこの観点から考察した。ついで、詩の隣接分野である「小説」に於ける「写真」の影響と「肖像」の表れ方へと視座を広げ、フロベールの作品分析及び同時代の詩作品との比較を行うことで共通性を探った。さらに、フランス象徴主義と日本近代詩の交流として、ヴェルレーヌの初期作品が20世紀前半の日本でどのように翻訳されたかを検証することにより、日仏の詩的言語の問題点を浮かび上がらせることに成功した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
 文学研究において、「顔」という表象がテーマ批評の「身体性」から逃れる対象であったのは、身体の一部とするには複雑な機能を持つからであった。本研究は、先行研究が回避する問題に正面から切り込み、日仏の詩的言語の特性をこの観点から考察したことで成果をあげ、隣接分野である「小説」へと視座を広げ、「顔」や「肖像」の隠し持つ問題を明るみに出した2点で、学術的意義を持つ。今日の社会で個人の識別に「顔写真」が用いられ、機械による「顔認証」が進んでいるのは周知の通りである。「顔写真」の普及し始めた時代に、詩や小説がどう対置したかを考察することは、現代社会を生きる個人の問題を照らす指針になる点で、社会的意義を持つ。

研究成果の概要（英文）：The spread of photographic portraits is considered to be one of the indicators of modernization. The objective of this research is to clarify its influence on French Symbolism and Modern Japanese poetry, starting with the analysis of the representations of faces and portraits in Hagiwara Sakutarō and Arthur Rimbaud's works. We moved onto novels, which are in the adjacent realm in literature and examined the effects of portraits in Flaubert's works. We also looked for the common elements of their representations comparing the novels and the poetry of the same period, specifically Baudelaire's works. Finally, by examining the translation works of Verlaine by Japanese poets in the early 20th century, which characterizes the literary communication between French Symbolism and Modern Japanese poetry, we were able to deepen our understanding of the poetic language in French and Japanese, focusing on the differences of two languages.

研究分野：19世紀フランス詩

キーワード：フランス象徴主義 日本近代詩 写真 顔 肖像 ランボー ヴェルレーヌ 萩原朔太郎

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

文学研究において、「顔」という表象がテーマ批評の扱う「身体性」から逃れる対象であったのは身体の一部とするには「顔」が複雑な性格を持つからであった。その意味と捉え難さは「顔」が哲学的考察の対象であり続けることから明らかである。一方、近代化がフランス象徴主義及び日本近代詩に与えた影響関係については既に多くの研究を数えるが、「写真」に関しては「写真技術」の発達にとどまり、「顔写真」「肖像写真」を対象とすることはなかった。このような背景のなかで、本研究は、この2分野の欠落を結びつけ、これまで先行研究が回避してきた「顔」という表象に正面から切り込み、近代化の指標である「顔写真」の普及に焦点を絞り、この時代の詩作品のなかで「顔」や「肖像」がどのように表されているかを分析・考察することから着想された。

2. 研究の目的

本研究は1で述べたような学術的背景を持ち、「顔」「肖像」を共通の表象とする、フランス象徴主義と日本近代詩の比較分析は、よって学術的な問いに答えることを目的とする。今日の社会に目を転ざると、個人を掌握する手段として「顔写真」が一般であり、機械による「顔認証」もますます精度を増していることは周知の事実である。「顔写真」が一般に普及し始めた時代に、詩がこの現象にどのように対置したか、「顔写真」の普及は作品に表象される「顔」や「肖像」とどのような関係にあるかという問いは、さらに文学と社会という異なる分野、19世紀と現代という異なる時代を結びつけ、現代社会の抱える問題に指針を与える目的を持つ。

3. 研究の方法

主に文献調査による。研究に必要な文献は書籍として購入するだけでなく、国立国会図書館所蔵の文献の閲覧や複写、また所属機関付属図書館を通じて他大学所蔵図書館からの貸借、複写を活用して入手した。

4. 研究成果

成果はすべて、国内外の論文に発表する形で示した。以下、テーマごとにまとめ、最後に研究成果全体から得られた知見について述べる。

1) 「顔写真」と「詩」、詩に於ける「顔」「肖像」の表象

2019年には、研究開始当初の背景と目的に沿った形で2本の論文を発表した。

« Visage de Rimbaud, *visage* chez Rimbaud », *Rimbaud, Verlaine et zut. À la mémoire de Jean-Jacques Lefrère*, (Classiques Garnier, 2019, p. 317-336.)

「朔太郎の肖像、『月に吠える』のなかの「顔」」、『SAKU 萩原朔太郎研究会会報』84号、(2019年、p. 81-96.)

近年発表され大きな反響を呼んだ「詩を放棄した後のランボー」の写真は、本研究の着想に関して重要なものであるが、これは、「ランボーの写真」、つまりこの写真の発見の経緯、「顔写真」をめぐる考察及び「ランボー像」受容の変遷に、「ランボーの作品に於ける〈顔〉」、つまりランボー自身が詩の中で「顔」をどのように扱っているかをめぐる考察を対比するものである。「顔写真」が一般に見る者の被写体に対する思いを反映するという性質を検証したうえで、ランボーにとって「顔 *visage*」という語は決して詩に適した語ではなく、「顔」は動いている身体と結びつけられており、静止した「顔」をつぶさに眺めることを好むボードレーと対照的である点を指摘した。も同様の構成を持つ。すなわち、現行の教科書また過去の教科書が掲載する萩原朔太郎の肖像写真を収集比較したうえで、朔太郎自身が詩集『月に吠える』のなかでどのように「顔」や「肖像」を扱っているかを分析した。教科書の掲載する肖像写真が時代によって大きく異なることから、読者が抱く「朔太郎」の印象の違いは明らかであるが、詩のなかでは朔太郎が「顔」と「肖像」に重要性を与えている事実は興味深く、「顔」と「風景」を重ねる比喩がボードレーと同一であることを指摘した。

2) 「肖像写真」と「小説」、小説に於ける「肖像」及び「肖像画」の表象

2020年以降は、「詩」の隣接分野である「小説」「フランス象徴主義」と「フランス近代小説」の比較へと視座を広げ、3本の論文を発表した。

「『感情教育』に於ける「肖像(画)」の問題」、『群馬県立女子大学紀要』第42号、(2021年、p. 1-12.)

「『サランボー』に於ける〈肖像〉の問題—集団と個人の表象」、『群馬県立女子大学紀要』第43号、(2022年、p. 1-13.)

« Femmes et “portrait” dans *Madame Bovary* et l'*Éducation sentimentale* »,

Mélanges Steve Murphy, (Classiques Garnier, 2023 予定)

フロベールはボードレールと並んで、「写真技術」に関して敏感に反応した作家として知られている。『ボヴァリー夫人』には、シャルルが自身の「ダグレオタイプの」写真をエンマに贈ろうと計画する件（**Gustave Flaubert, *Œuvres complètes III, 1851-1862*, Édition par Claudine Gothot-Mersch, Gallimard, « Bibliothèque de la Pléiade », 2013, p. 252**）があり、『感情教育』では次々と職業を変えるペルランが最終的に「写真家」になることが告げられる（**Gustave Flaubert, *Œuvres complètes IV, 1863-1874*, Édition par Gisèle Séginger, Gallimard, « Bibliothèque de la Pléiade », 2021, p. 551**）。作品に於ける「写真」への関与はここにとどまり、フロベールはもっぱら登場人物を「肖像(画)」と関係づける。

はそれぞれの作品のなかで主要登場人物がどのように描写されるかを辿り、その特徴を分析する試みである。に於いては、アルヌー夫人を中心に女性登場人物たちが「肖像画」と関わる。なかでもロザネットが自らポーズを取りペルランが描いた「肖像画」の扱われ方は興味深い（同掲書、**p. 402**）。では、舞台が古代であるとき、「集団」で描かれる傭兵たちに対して「ランボー」をはじめとする主要登場人物はその登場の様子から、体形や姿勢、衣装や装飾品にいたるまで、入念に描かれ、対照を為す。「個人」の丹念な描写を行う視線が傭兵たちのそれから、作者のそれへと巧みにすり替えられることを検証した。では、で扱った女性登場人物に「エンマ」を加えて「女性」の描写を総括しつつ新たな考察を加え、主人公フレデリックの好む「額縁化」と『悪の華』所収の詩篇「**Le Cadre**」（**Baudelaire, *Œuvres complètes I, texte établi, présenté et annoté par Claude Pichois, Gallimard, « Bibliothèque de la Pléiade », 1975, p. 39-40***）に展開される「額縁」の類似性を指摘した。

3) フランス象徴主義と日本近代詩の詩的言語の交流としての翻訳

20世紀前半は、フランス象徴主義の日本語訳が興隆した時代である。翻訳者は自身が詩人である場合が多く、フランス象徴主義と日本近代詩が交流する場として翻訳をとらえることができよう。この時期、ボードレールとは異なる形で、ヴェルレーヌは広く愛されていた。

« Traduction japonaise de l'ennui verlainien dans trois **Ariettes** », **Rimbaud, Verlaine et Cie, « un devoir à chercher ». À la mémoire de Yann Frémy, sous la direction de Seth Whidden, (Classiques Garnier, 2023, p. 221-234.)**

ここでは、**Romances sans paroles**『言葉なき恋歌』のなかでも特によく知られる **Ariettes oubliées**「忘れられたアリエット」から次の3篇を取り上げた。

VIII « Dans l'interminable / Ennui de la plaine... », Verlaine, **Romances sans paroles**, Présentation par Arnaud Bernadet, p. 59 「広い野にみなぎり渡る / 辺際(はて)のない屈託のうち.....」堀口大學『ヴェルレーヌ詩集』、1982年、ほるぶ出版、**p. 110**

III « Il pleure dans mon cœur / Comme il pleut sur la ville,... », **ibid.**, p. 53. 「巷に雨の降るごとく / わが心にも涙ふる。.....」同掲書、**p.102**.

I « C'est l'extase langoureuse, / C'est la fatigue amoureuse,... », **ibid.**, p. 51. 「そはやるせなの絶頂(かぎり)なり / そは恋痴(し)れし疲れなり.....」同掲書、**p. 98**

7つの日本語訳を比較検討することにより、これらの詩篇に新たな読みを提示しようとする試みである。小さな訳語の揺らぎや多様性に注目する一方、読み過ぎてしまいそうな文法的理解の差異を掘り下げることで、日仏双方の詩の言語を捉え直した。その結果「ヴェルレーヌの憂鬱」を理解するためにはそれを表す「語」そのものではなく、周辺の語彙が重要であることを明るみに出した。

4) 研究全体から得られた知見

以上、本研究の研究成果をまとめてみると、近代化の指標として本研究が選んだテーマ「顔(写真)」「肖像(写真)(画)」について、その時代を生きた詩人や小説家がすぐさま新しい現象を作品に取り入れたわけではないことがわかる。その遅延の理由が、留保や躊躇いから来るものなのか、抵抗や拒絶といった強い態度なのか、作品からはうかがいしれないが、廉価な肖像写真が流布し始めた社会にあって、作品に於ける人物造形がその影響を全面的に受けることはなかったようである。ランボーの作品がそうであるように一個人の把握が「顔」だけに還元されることはなく、フロベールが行ったように、読者に人物を把握させるためには行数が割かれている。一方、ヴェルレーヌの翻訳の例に見られるように、文化と言語の異なる翻訳者・詩人が親しみを覚えるのは、「都市」に訪れる「雨」や「雪」といったありふれた気象、「川の流れ」や「小鳥のさえずり」のような身近な自然現象なのである。これら本研究で得られた知見がこの時代に限定されるのか、広く一般化できるものなのか、時代を変えて、新たな検証が必要である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 3件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Manami IMURA	4. 巻 -
2. 論文標題 Traduction japonaise de l'ennui verlainien dans trois Ariettes	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Rimbaud, Verlaine et Cie, "un devoir a chercher". A la memoire de Yann Fremy	6. 最初と最後の頁 p. 221-234
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 井村まなみ	4. 巻 第43号
2. 論文標題 『サランボー』に於ける<肖像>の問題 集団と個人の表象	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 群馬県立女子大学紀要	6. 最初と最後の頁 p. 1-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Manami IMURA	4. 巻 -
2. 論文標題 Femmes et "portrait" dans Madame Bovary et L'Education sentimentale	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Melanges Steve Murphy	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 井村まなみ	4. 巻 第42号
2. 論文標題 『感情教育』に於ける「肖像（画）」の問題	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 群馬県立女子大学紀要	6. 最初と最後の頁 p. 1-12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Manami IMURA	4. 巻 1
2. 論文標題 Visage de Rimbaud, "visage" chez Rimbaud	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Rimbaud, Verlaine et zut. A la memoire de Jean-Jacques Lefrere	6. 最初と最後の頁 p. 317-336
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 井村まなみ	4. 巻 84
2. 論文標題 朔太郎の肖像、『月に吠える』のなかの「顔」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 SAKU 萩原朔太郎研究会会報	6. 最初と最後の頁 p. 81-96
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------